

# 令和3年度 指定管理者制度モニタリング評価表

令和4年3月31日現在 (A)

## 1. 施設概要

施設名	尼崎市記念公園（尼崎市西長洲町1丁目4番1号）		
主な事業内容	有料公園施設（付属設備の利用を含む。）の利用の予約受付（許可、取消し）、公園内においてする行為の許可及びその取消し、公園内においてする行為及び有料公園施設の利用に係る使用料の徴収、減免及び還付に関する業務、公園の施設及び付属設備の維持管理業務		
指定管理者名	公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団	指定期間	H29. 4. 1. ～R4. 3. 31
施設所管課	都市整備局 公園維持課	所属長名	武本 哲也

## 2. 目標・指標

施設の設置目的	都市基幹公園である運動公園として、都市住民全般の主として運動の用に供することを目的とする。また、総合公園的な性格も付加し、都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯等総合的な利用に供する。					
施設のありたい姿	尼崎市のスポーツの拠点として、幅広い年齢層の健康増進、競技力向上等スポーツの振興に寄与し、利用者が安全・安心して快適に運動・スポーツが行え、また、大規模スポーツ大会等の開催により、観戦する人にも夢と感動を与えることができるような施設					
指標	(1) 貸館施設の利用率の向上 (2) トレーニング室利用人数の向上 (3) 利用者ニーズを把握し、利用者満足度の向上					
目標	(1) 貸館施設の利用率を前年度比0. 3%増	H29	H30	R1 (H31)	R2	R3
	(2) トレーニング室年間利用人数9万人以上 (3) 利用者アンケート調査による「満足」以上の割合90%以上	91.6	91.9	95.4	93.5	92.4

## 3. 各項目における評価

項目		説明	評価
有効性	指定事業の実施	協定書や仕様書に定められた取組ができたか。	A
	自主事業の実施	指定管理者の提案による利用者満足度向上等ための自主事業を実施できたか。	A
	利用者ニーズの把握	利用者のニーズを把握し、事業実施や新たな取組に生かすことができているか。	A
	市民等の参画	施設運営や取組の実施に際して、市民や利用者の参画が得られたか。	B
	事業の効果	指定管理者が実施した事業に効果があったか。	B
	目標の達成度	施設における目標の達成度はどうだったか。	A
	パートナーシップ	パートナーとして市と協働が図れているか。	A
効率性	施設の保守管理	施設の保守、破損等の修繕を適正に実施できたか。	A
	経費削減・環境配慮の取組	経費削減や環境配慮につながる取組を実施しているか。	A
	利用率向上の取組	利用者増や収入増につながる取組を実施しているか。	A
	接遇・サービス	利用者に対する接遇やサービスが良かったか。	B
適正性	法令遵守	施設の管理運営や設備点検などが、法令等に沿って適正に実施されているか。	適正
	施設の経営状況	指定管理を行っている事業者本体や施設における経営状況は適正であるか。	適正
	危機管理	事故防止の安全対策や防犯・防災対策が適切にとられているか。	適正
	履行状況	提案時及び年度当初の計画等のとおり業務を行ったか。	適正

評価の凡例 S・・・特に優れている。A・・・優れている。B・・・標準である。C・・・改善が必要である。

※適正性については、「適正」もしくは「改善要」のどちらかで評価する。

### <評価する上で参考となるデータ、実績など>

- ・指定事業は適切に実施されており、適正な施設管理運営を行っていた。自主事業は、新型コロナウイルスによる施設の利用制限がある中、計画書に示された事業を可能な限り行っていた。
- ・利用者アンケートでは、「満足」以上と答えた人が92.4%であり、目標の「90%」を上回る結果であった。
- ・貸館施設の利用率については、前年度比0. 3%増を目標とし、全施設で目標値以上を達成した。
- ・トレーニング室年間利用人数は、新型コロナウイルスの影響により59,196人と、目標としていた9万人を達成できなかったが、感染対策の徹底等により、前年度比では7千人以上の増加であった。

#### 4. 総評

##### 施設所管課の所見

###### <実績・成果>

- ・各種事業の積極的な実施、利用者の満足度の高さからも、指定管理業務は良好に遂行されていた。
- ・施設の利用率向上という年度目標についても、新型コロナウイルスの影響がまだ残る中、年間を通して積極的に事業の企画及び市への提案を行い、目標達成のために意欲的に取り組む姿勢が見られた。
- ・限られた予算の中で優先順位をつけ、必要な修繕整備や利用者意見を反映させた施設の改善を行っており、要望に真摯に向き合い、対応していた。
- ・施設の老朽化に伴い、修繕以上のことであっても市と協議の上、対応していた。

###### <課題>

- ・施設整備から数十年が経過し、施設及び備品に老朽化が目立つ状況であり、その点についての要望を受けることが多いが、対応できていない現状がある。そのような中で、利用者満足度を上げるにもソフト面だけの改善では難しい面がある。
- ・大会利用が多いため、土日祝日の一般開放がほとんどできない。

###### <課題に対する改善の方向性>

- ・現況確認を両者で行い、優先度合いを確認した上で、引き続き必要なものについて予算要求を行っていく。また、指定管理者により、可能な範囲で、施設の改修・器具の買い替え等、適宜実施していく。
- ・土日祝日の大会利用は、担当課とも協議し、可能な限り一般開放を増やす方向で考えていく。

##### 指定管理者からの所見

###### <事業実施や施設管理を振り返って>

1. 新型コロナウイルスによる休館や時間短縮等の制限がある中ではあったが、利用者数及び利用率(稼働率)及び施設使用料(公金)の増加を達成した。
2. 安全面では、日常点検の徹底等により事故防止に努めるとともに新型コロナウイルスの感染拡大防止に努め、施設からクラスターを発生させること無く館運営を行えた。
3. 施設の老朽化に伴う修繕(50万円を超えるもの)箇所が増えているなか、尼崎市(公園維持課)と協議調整をしながら保全に努めた。
4. 電気料金の契約見直しなど、光熱水費の経費削減に努めた。

###### <市とのパートナーシップ(協働)を振り返って>

1. コロナウイルス感染防止のため、イベント・大会等の大半が中止となった中、市長旗大会等の開催に向けコロナ感染防止の対策等の打ち合わせを行い円滑な大会運営が行えるようサポートに努めた。
2. コロナウイルス感染拡大防止に向けた尼崎市の取組に、全面的に協力した。

##### 双方の意見を踏まえた今後の方向性

- ・新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、引き続き、国や県の対応方針に従い、安全安心な施設管理運営を行っていく。それに伴い、利用者へ不便をかけることもあるため、その際には丁寧に説明を行う。また、市、指定管理者、お互いに情報共有は迅速に行っていく。
- ・施設および器具の定期的な点検を実施し、予防保全に努めていく。必要な修繕等については、市と協議の上、適切に対応を行っていく。
- ・令和4年度の利用者調整会議には、大会利用についての議題を上げ、整理を行っていく。

# 令和3年度 指定管理者制度モニタリング評価表

令和4年3月31日現在 (B)

## 1. 施設概要

施設名	橘公園、小田南公園、西向島公園、猪名川公園、魚つり公園（尼崎市東七松町1丁目他）		
主な事業内容	有料公園施設（付属設備の利用を含む。）の利用の予約受付（許可、取消し）、公園内においてする行為の許可及びその取消し、公園内においてする行為及び有料公園施設の利用に係る使用料の徴収、減免及び還付に関する業務、公園の施設及び付属設備の維持管理業務		
指定管理者名	パークマネジメント尼崎	指定期間	H29. 4. 1～R4. 3. 31
施設所管課	都市整備局 公園維持課	所属長名	武本 哲也

## 2. 目標・指標

施設の設置目的	安心・安全で快適な緑の場、スポーツ及び憩いの場を提供すること。					
施設のありたい姿	施設利用者の視点でニーズを捉え、高い満足度が得られる安定的な施設管理とサービスを提供する。					
指標	利用者満足度アンケートでの満足度（％）					
目標	利用者満足度アンケートでの満足度 95%以上を目指す	H29	H30	R1	R2	R3
		96.1	94.5	96.0	97.9	98.0

## 3. 各項目における評価

項目		説明	評価
有効性	指定事業の実施	協定書や仕様書に定められた取組ができたか。	B
	自主事業の実施	指定管理者の提案による利用者満足度向上等ための自主事業を実施できたか。	A
	利用者ニーズの把握	利用者のニーズを把握し、事業実施や新たな取組に生かすことができているか。	A
	目標の達成度	施設における目標の達成度はどうだったか。	A
効率性	施設の保守管理	施設の保守、破損等の修繕を適正に実施できたか。	B
	経費削減・環境配慮の取組	経費削減や環境配慮につながる取組を実施しているか。	A
	利用率向上の取組	利用者増や収入増につながる取組を実施しているか。	B
	待遇・サービス	利用者に対する待遇やサービスが良かったか。	B
適正性	法令遵守	施設の管理運営や設備点検などが、法令等に沿って適正に実施されているか。	適正
	施設の経営状況	指定管理を行っている事業者本体や施設における経営状況は適正であるか。	適正
	危機管理	事故防止の安全対策や防犯・防災対策が適切にとられているか。	適正
	履行状況	提案時及び年度当初の計画等のとおり業務を行ったか。	適正

評価の凡例 S・・・特に優れている。A・・・優れている。B・・・標準である。C・・・改善が必要である。

※適正性については、「適正」もしくは「改善要」のどちらかで評価する。

### <評価する上で参考となるデータ、実績など>

- 指定事業は適切に実施されており、適正な施設管理運営を行っている。自主事業は、新型コロナウイルスによる影響により、目標である新規企画5件の実現は難しい状態であるが新規の企画としてたちばなマルシェや魚つり公園ドッグラン等の大きな企画を実施できた。
- 利用者満足度調査を実施し、「満足」以上と答えた人が95%以上であり、目標を達成しており、前年度比も100.1%であった。
- 利用者アンケートで、高評価を得ている。（寄せられた意見の一例）  
案内板等わかりやすく良い方向に向かっている、いつも綺麗に管理されている、グラウンド整備が良かった、管理人が丁寧
- 植栽等の病害虫防除を、病害虫を早期発見するなど積極的に行われおり、公園利用者が安心して公園を利用できるよう努めていた。

## 4. 総評

<p><b>成果</b></p> <p>指定事業の適正な実施、利用者の満足度の高さからも、指定管理業務は良好に遂行されている。苦情の件数もほとんどなく、概ね良好に管理できている。</p>	<p><b>指定管理者の所見</b></p> <p>コロナ禍ではあるが、感染対策を講じつつ、たちばなマルシェや魚つり公園ドッグラン等の賑わい演出等を実施できたと考えている。</p>
<p><b>課題</b></p> <p>平日の利用が少なく、利用率が低い。公園について必要最低限の情報発信しかできていない。</p>	<p><b>今後の対策</b></p> <p>平日の利用は野球利用等だけへの掘り下げを行っても利用増は難しい。そのため、別の利用用途での使用（園児等への開放）も検討する。SNS等を利用し公園からの情報発信を行い、より便利に加えて愛着を持ってもらうようにしていく。</p>

# 令和3年度 指定管理者制度モニタリング評価表

令和4年3月31日現在 (B)

## 1. 施設概要

施設名	尼崎市立魚釣り公園 (尼崎市平左衛門町66)		
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魚釣施設、駐車場または管理棟内においてする行為の許可、その取消し</li> <li>・魚釣施設等の利用 (付属設備のうち規則で定めるものの利用を含む。)に関する業務</li> <li>・魚釣施設等及び管理棟の施設並びにこれらの付属設備の維持管理業務</li> </ul>		
指定管理者名	ハウスビルシステム・尼漁開発グループ	指定期間	R2. 4. 1～R7. 3. 31
施設所管課	都市整備局 公園維持課	所属長名	武本 哲也

## 2. 目標・指標

施設の設置目的	市民に安全で快適な魚つりの場及び憩いの場を提供することにより、市民の余暇の活用を図る。					
施設のありたい姿	施設利用者の視点でニーズを捉え、高い満足度が得られる安定的な施設管理とサービスを提供する。					
指標	施設利用者数 (人)					
目標	施設利用者数について、毎年度5万人超を目指す。	R2	R3	R4(見込)	R5(見込)	R6(見込)
		43, 851	49, 887	50, 000	50, 000	50, 000

## 3. 各項目における評価

項目		説明	評価
有効性	指定事業の実施	協定書や仕様書に定められた取組ができたか。	A
	自主事業の実施	指定管理者の提案による利用者満足度向上等ための自主事業を実施できたか。	-
	利用者ニーズの把握	利用者のニーズを把握し、事業実施や新たな取組に生かすことができているか。	B
	目標の達成度	施設における目標の達成度はどうだったか。	A
効率性	施設の保守管理	施設の保守、破損等の修繕を適正に実施できたか。	B
	経費削減・環境配慮の取組	経費削減や環境配慮につながる取組を実施しているか。	B
	利用率向上の取組	利用者増や収入増につながる取組を実施しているか。	A
	接遇・サービス	利用者に対する接遇やサービスが良かったか。	B
適正性	法令遵守	施設の管理運営や設備点検などが、法令等に沿って適正に実施されているか。	適正
	施設の経営状況	指定管理を行っている事業者本体や施設における経営状況は適正であるか。	適正
	危機管理	事故防止の安全対策や防犯・防災対策が適切にとられているか。	適正
	履行状況	提案時及び年度当初の計画等のとおり業務を行ったか。	適正

評価の凡例 S・・・特に優れている。A・・・優れている。B・・・標準である。C・・・改善が必要である。

※適正性については、「適正」もしくは「改善要」のどちらかで評価する。

### <評価する上で参考となるデータ、実績など>

コロナによる影響でイベント等実施できなかったものの利用者増に努めており、アルコール消毒や職員と利用者への検温など適切に対策を講じ、円滑な営業に努めていた。

目標である年間入館者数50,000人にわずかに届かずであったが、過去最高入館者数を達成されたので、積極的にリピーターの獲得等に努められた結果が出ていると考えられる。

また、SNSを活用して、日々の釣果を情報提供するなどして、うまく利用率向上に取り組んでいた。

## 4. 総評

成果	指定管理者の所見
施設利用者数の目標の達成はコロナ禍ではあるが、釣果が良く利用者数は伸びている状況であり、SNS等での発信の効果ができていると考えている。	今後、コロナ禍対策を講じつつ、今までできていないイベントや大会等を積極的に行っていききたい。
課題	今後の対策
今後もコロナの影響があると思われるが、しっかりとしたコロナ対策を講じながら、施設利用者の増加につながるようなイベント等の企画立案や快適な魚釣り環境の提供をする必要がある。	しっかりとしたコロナ対策を講じつつ、利用者の増加につながるイベントを企画し、目標の年間5万人超を達成したい。